

米国農務省穀物等需給報告(2016年5月10日発表のポイント)

平成 28 年 5 月 11 日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、5月10日(現地時間)、2016/17年度の1回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2016/17年度の穀物全体の生産量は消費量を上回り、大豆の生産量は消費量を下回る見込み－
※現時点では、北半球で作付作業中、南半球で未だ作付作業が始まっていないため、本報告は極めて暫定的なものである。

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 25億633万トン(対前年度比 1.8%増)
- ② 消費量: 24億9,522万トン(対前年度比 2.1%増)
- ③ 期末在庫量: 6億499万トン(対前年度比 1.9%増)
期末在庫率: 24.2%(対前年度差 0.1ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 : 生産量は、アルゼンチン等で増加するものの、EU、ウクライナ等で減少することから、世界全体では史上最高の前年度を下回る見込み。また、消費量は、EU等で減少するものの、インド等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量: 7億2,699万トン(対前年度比 1.0%減)・・・アルゼンチン等で増加、EU、ウクライナ等で減少
- ② 消費量: 7億1,256万トン(対前年度比 0.7%増)・・・インド等で増加、EU等で減少
- ③ 期末在庫量: 2億5,734万トン(対前年度比 5.9%増)・・・中国等で増加、インド等で減少
期末在庫率: 36.1%(対前年度差 1.8ポイント増)

とうもろこし : 生産量は、中国で国家備蓄政策廃止及び国内価格低下に伴う播種面積減により減少するものの、米国で播種面積の大幅増により増加、アルゼンチン、南アフリカ、EU等でも増加することから、世界全体では前年度を上回り、史上最高の2014/15年度をわずかに下回る見込み。また、消費量は、中国、米国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量: 10億1,107万トン(対前年度比 4.4%増)・・・米国、アルゼンチン、南アフリカ、EU等で増加、中国等で減少
- ② 消費量: 10億1,190万トン(対前年度比 4.4%増)・・・中国、米国等で増加
- ③ 期末在庫量: 2億704万トン(対前年度比 0.4%減)・・・米国等で増加、中国等で減少
期末在庫率: 20.5%(対前年度差 1.0ポイント減)

米(精米) : 生産量は、米国で長粒種米の作付面積の大幅増に伴う増加、インド等でも増加することから、世界全体では前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量は、米国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回るものの、期末在庫量の伸びに対して消費量の伸びが大きいことから、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量: 4億8,071万トン(対前年度比 2.2%増)・・・インド等で増加
- ② 消費量: 4億8,053万トン(対前年度比 0.4%増)
- ③ 期末在庫量: 1億661万トン(対前年度比 0.2%増)・・・中国等で増加、タイ、インド等で減少
期末在庫率: 22.2%(対前年度差 0.1ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、米国等で減少するものの、ブラジルで収穫面積の増加及び単収の上昇から増加、中国では政策変更によりとうもろこしから大豆への播種転換が促されること等から、世界全体では前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量は、中国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下。

なお、アルゼンチンは、2016年4月の洪水の影響により、2015/16年度の生産量が前月から250万トン下方修正。

- ① 生産量: 3億2,420万トン(対前年度比 2.6%増)・・・ブラジル等で増加、米国等で減少
- ② 消費量: 3億2,796万トン(対前年度比 3.1%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 6,821万トン(対前年度比 8.1%減)・・・米国、アルゼンチン等で減少
期末在庫率: 20.8%(対前年度差 2.5ポイント減)

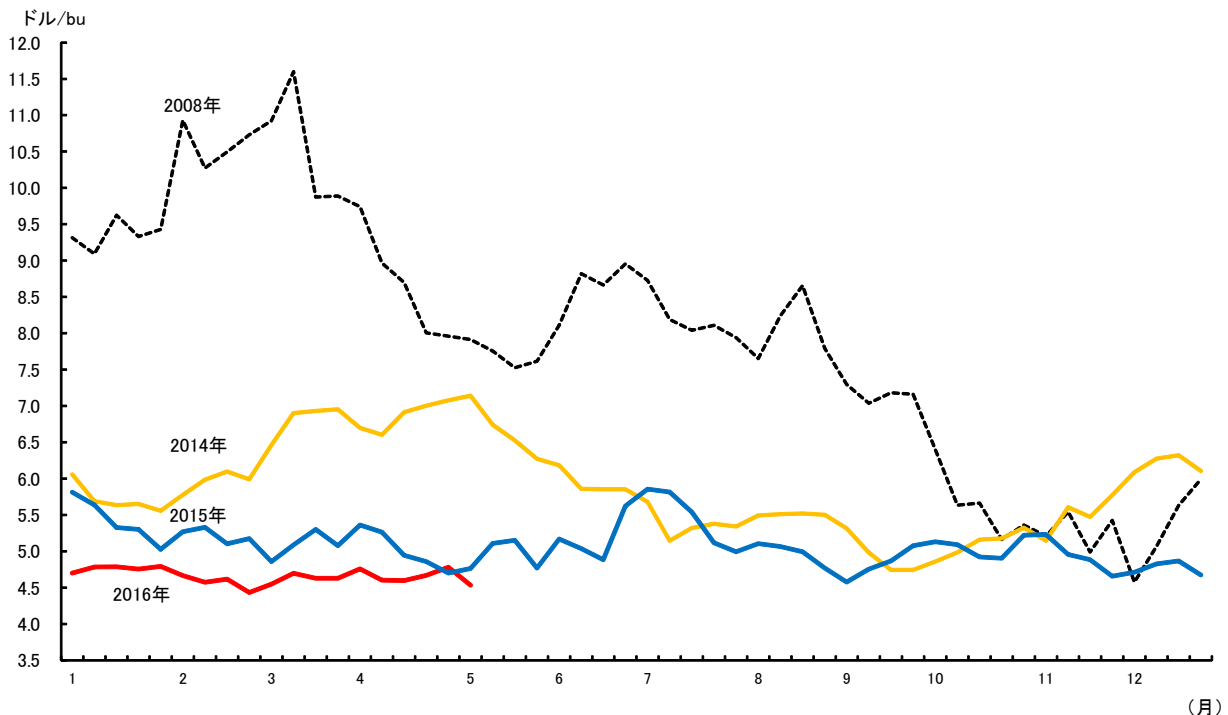
(参考1)

世界の穀物の価格動向(2016年)

- 小 麦:4.53ドル/bu(前年同時期の価格:4.70ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における5月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2015年1月以降、世界的に潤沢な在庫・供給量が改めて確認される中、米ドル高の進展による米国産の割高感、米国大平原での降雨・降雪による土壌水分量の上昇、4月以降の米国春小麦の作付進展等から4ドル/bu台後半まで値を下げたものの、5月以降、米国冬小麦の多雨による作柄悪化懸念・収穫遅延等から6ドル/bu近くまで値を上げた。7月以降、世界全体の供給量が潤沢なこと、米国での収穫進展等から4ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、9月以降、黒海沿岸地域や豪州での乾燥懸念等から5ドル/bu台前半まで値を上げた。11月以降、米国産冬小麦の作柄改善見込み等から4ドル/bu台後半まで値を下げた。

2016年2月以降、米国大平原での降雪による凍害懸念の後退、米国の農業観測会議における需給緩和見通し等から4ドル/bu台前半まで値を下げた。3月以降は米国大平原での乾燥・気温低下に伴う作柄悪化懸念や、米国の作付意向面積報告が市場予測を下回ったこと等から値を上げ、4月半ば以降は大豆、とうもろこしにつられて値を上げたものの、現在は4ドル/bu台後半で推移。



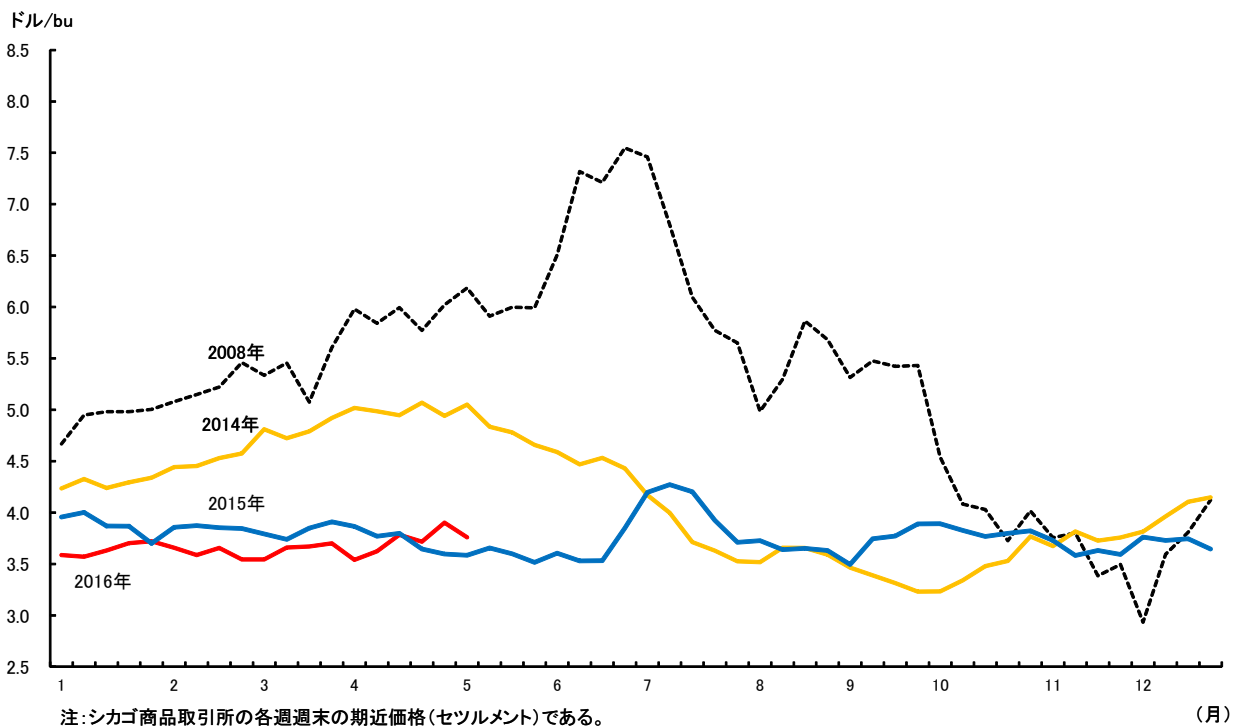
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

(月)

● とうもろこし: 3.76ドル/bu (前年同時期の価格: 3.60ドル/bu)
 (価格は、シカゴ商品取引所における5月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2015年1月以降、南米の豊作見込みや、4月以降の米国の作付進展等から3ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、6月中旬以降、多雨による作柄低下懸念等から4ドル台/bu前半まで値を上げた。7月中旬以降、米国中西部での天候回復から3ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、9月以降、世界の期末在庫の引き締め見込みから値を上げた。11月上旬以降、中国の在庫大幅引上げや米国の単収見込み引上げによる需給緩和観測等から3ドル/トン台半ばまで値を下げた。

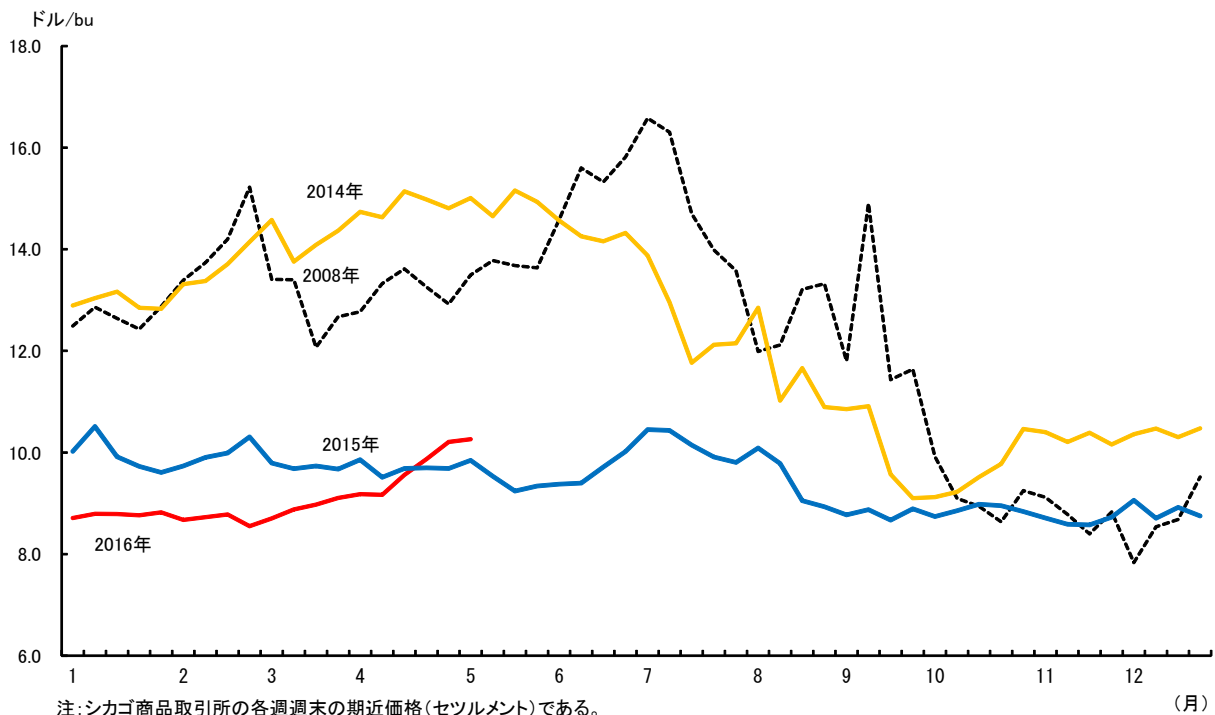
2016年4月以降、ブラジル中西部での乾燥型の天候やアルゼンチンの多雨型の天候による収穫遅延及び作柄悪化懸念等から値を上げ、現在は3ドル/bu後半で推移。



● 大豆:10.26ドル/bu(前年同時期の価格:9.69ドル/bu)
 (価格は、シカゴ商品取引所における5月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2015年1月以降、南米の豊作見込み等から値を下げた後、2月中旬から3月初旬のブラジルでのトラック運転手によるストライキを受けて一旦値を戻した。5月中旬以降、米国の作付進展等から9ドル/bu台前半まで値を下げたものの、6月上旬以降、米国中西部の一部で頻繁な降雨による作付遅延により10ドル/bu台半ばまで値を上げた。7月中旬以降の天候回復、8月中旬以降の中国の輸入減退懸念等により値を下げた。

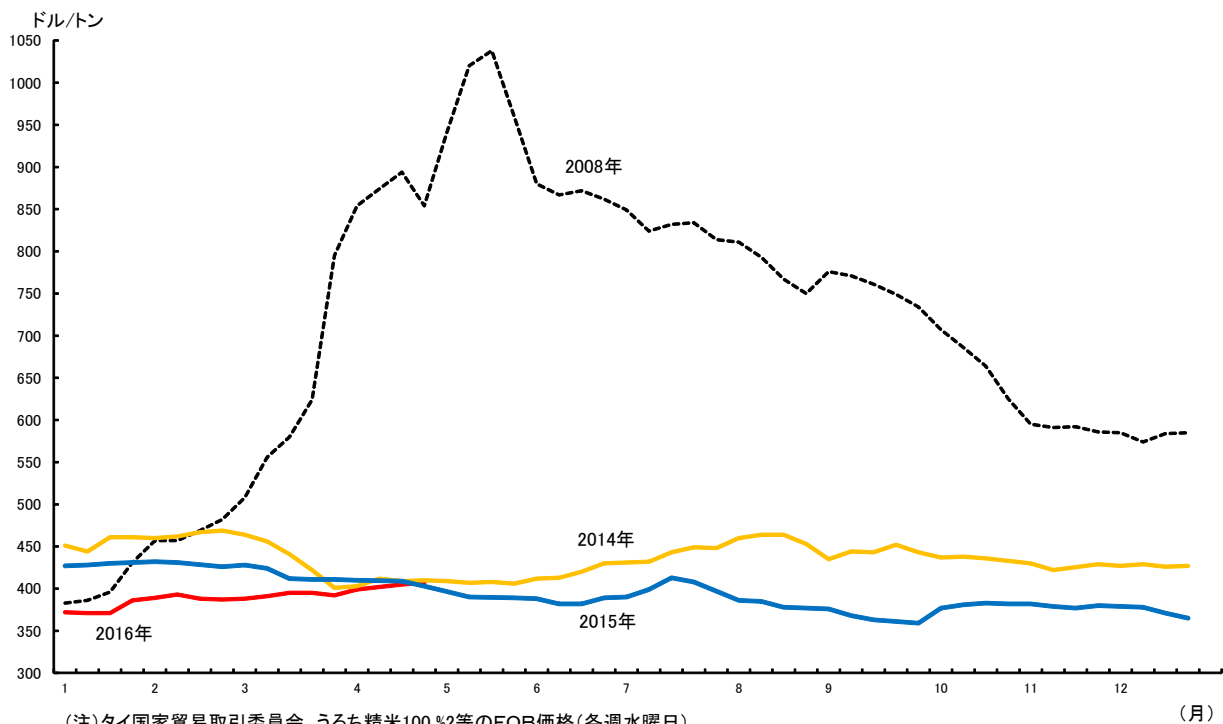
2016年3月初旬以降は堅調な輸出需要、4月以降はアルゼンチンの多雨型の天候による収穫遅延及び作柄悪化懸念等から値を上げ、現在は10ドル/bu台前半で推移。



- 米: 407ドル/トン(前年同時期の価格: 403ドル/トン)
(価格は、タイ国家貿易取引委員会における4月最終週の水曜日のFOB価格。)

2015年1月以降も、引き続きタイの政府在庫放出から380ドル/トン台まで値を下げた。タイの干ばつによる供給不足懸念から、7月半ばには410ドル/トン前後まで値を上げたものの、その後のタイの更なる政府在庫放出から9月下旬には360ドル/トン前後まで値を下げた。10月以降、フィリピン、インドネシアの輸入見込みから380ドル/トン台まで値を上げたものの、11月下旬以降、インドでの収穫の進展等から360ドル/トン台半ばまで値を下げた。

2016年1月半ば以降、タイでの水不足により乾季米の作柄懸念が継続していること等から上昇し、現在は400ドル/トン台で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年1月	2月
116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	79.05	82.89	100.16	109.75	118.24	118.57
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2016年1月
120.39	119.55	120.74	123.75	123.23	123.23	120.22	120.06	122.54	121.84	118.25
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
115.02	113.07	109.88								

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年度別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年1月	2月
41.16	78.91	93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	34.25	26.25
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2016年1月
29.00	29.75	28.25	31.00	34.00	37.00	32.80	28.75	28.00	24.40	22.25
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
20.25	22.00	23.50								

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
月別は、週別価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年1月	2月
66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	47.33	50.72
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2016年1月
47.85	54.63	59.37	59.83	50.93	42.89	45.47	46.29	42.92	37.33	31.78
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
30.62	37.96	40.19								

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成28年4月, 127頁
但し、28年4月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の4月29日までの週別価格の平均値。